

（提言その2）「男性指導者の女性選手に対する指導において留意すべきこと」

一般社団法人日本バトン協会 倫理委員会

バトントワーリングの世界では競技者ならびに指導者の男女の割合としては、圧倒的に女性が多いのが現実です。つまり、男性指導者にとって指導の対象の多くが女性選手であるということです。

その中で男性指導者はセクシャルハラスメント防止に対する意識を日々強く持たなければ、いろいろな誤解やトラブルを自ら招いてしまう危険性があります。

以下、男性指導者に問いかける方式で気をつけるべき留意点を挙げてみました。

- (1) 意識の奥底に、女性は男性に“従うもの”という潜在意識はありませんか？
その潜在意識が、すでにセクシャルハラスメントの発出点です。
怒り、怒鳴り、大声で威圧する、従わせる…それは指導ではありません。
明確なハラスメントです。
目前の女性選手の、一人の人間としての人格を、さらにその尊厳を認めていますか？
時には強い口調で叱咤激励しなければならないこともあるでしょう。
その指導は、選手が理解し納得できる、客観的で理路整然とした内容ですか？
その指導の意図は、世間に対して説明でき認められるものですか？
そして、社会的に教育的にも支持されるものですか？
- (2) 注意や叱責に、体型・性格など心身に関わることを否定や中傷にして表現していませんか？
それは、競技とは関係のないことです。目前の選手は心に傷を負っています。
自分自身が言われて不快に思う表現は相手にも使ってははいけません。
感情や勢いで発言は、特に注意しなければなりません。
平素より言葉遣いが粗暴・乱暴にならないよう留意しましょう。
- (3) 練習時（レッスン時）において、指導上といえども、選手の体に触れる（またはマッサージが必要と選手の体に触れる）ことなどについては、思春期の選手に対して注意を要する場合があります。
- (4) ひとつの部屋の中に、女性選手と2人だけにいるという密室性は誤解を生みます。
部屋の中で指導する場合、その部屋の中に他の女性の指導者やキャプテン、部長など同性と一緒にするなどして、その選手に安心感が生まれるよう配慮しましょう。
指導する側の話し方や内容も自然と客観的なものになります。
他の女性集団から誤解されないような指導環境をつくりましょう。
- (5) 選手のプライベートな時間・エリア・生活にまで立ち入って制約してはいけません。
また、平素より女性選手にプライベートな質問をすることも避けましょう。

※今回のテーマであるセクシャルハラスメントについては、本来、男性指導者・女性指導者と性別によって限定する問題ではありません。「女性指導者だから選手に対するセクシャルハラスメントは関係ない」という意識を持つことは誤りです。「男の子だから…」という発言もセクシャルハラスメントととられる場合があります。男性・女性双方に限定せずに、指導者として気をつけなければならない問題です。

指導者は支配者ではありません。選手を所有しているわけではありません。

その指導の時間、選手の家族（父母）から預かっているのです。

選手の向うには、家族（父母）が見つめるまなざしがあります。

指導者は選手とのコミュニケーションを大切に、自身の指導に対して理解されることに努めなければなりません。

指導に携わる立場として、常に謙虚に日々の指導を振り返り、自省しましょう。

現代において、ハラスメントに関する資料を読み、学ぶことは必須となっています。

選手たちにとって、指導者が「人格者」であるという安心感と信頼感を与えられるように、自身の心と、行動を律し、指導への研究と研鑽を積んでいかなければなりません。

そして、研鑽された指導によって、選手がスポーツに楽しさと意義を感じ、心身ともに成長されることを心より願っております。

以上